科目名	家庭生活（調理）				
科目名（英）	Family life (cookery)				
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	大仁田 あずさ
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて専任教員として勤務
対象学科・学年	介護福祉科　2年				
授業概要	我が国では高齢化の進展及び疾病構造の変化が進む中、厚生労働省は「健康日本21（第二次）」において、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を実現するために、健康寿命の延伸・健康格差の縮小、生活の質の向上、社会環境の質の向上などの目標を設定している。そこで、本科目では、介護を必要とする人々が自分らしく健康的な生活を営むうえで重要な食支援の基本となる知識と技術の習得を目指す。				
授業形式	講義：　○	演習：	実習：　△	実技：	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				食文化や食生活の変化、疾患と食事、食生活に関する施策について説明できる。
○					五大栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用について説明できる。
○					食品の保存、食品衛生、食中毒の種類と原因、食中毒予防について具体的に述べることができる。
	○				高齢者・障害のある人の身体機能と栄養、食品選択と調理方法について説明できる。
			○		利用者に正しい食支援を行うために、自分自身が健康で豊かな食生活を実現することができる。

テキスト・教材 参考図書

介護福祉士養成講座編集委員会編集 『最新 介護福祉養成講座6　生活支援技術Ⅰ』 中央法規出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	食生活の基本知識（食文化と食生活の変化、疾患と食事、食生活に関する施策等）	【予習】教科書の該当範囲を事前に読む（0.5時間） 【復習】授業ノートの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）
2	栄養の理解（五大栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用）	【予習】教科書の該当範囲を事前に読む（0.5時間） 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）
3	献立作成、食品選択・購入（献立の立て方、食事バランスガイド、食品表示、食品添加物）	【予習】教科書の該当範囲を事前に読む（0.5時間） 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）
4	食品の保存、食品衛生（食品衛生の意義、食中毒の種類と主な原因、食中毒予防）	【予習】教科書の該当範囲を事前に読む（0.5時間） 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）
5	調理の基本、調理操作（調理の準備、食材の下処理、調理操作、食品の調理性）	【予習】教科書の該当範囲を事前に読む（0.5時間） 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）
6	高齢者・障害のある人の栄養と食生活（身体機能と栄養、食品選択と調理方法）	【予習】教科書の該当範囲を事前に読む（0.5時間） 【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）
7	調理技術Ⅰ（実習）　一汁三菜の日本料理（高齢者にも適応） 【実習内容】翡翠の香り飯、さばの幽庵焼き、沢煮椀、みぞれ和え、フルーツヨーグルト	【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）
8	調理技術Ⅰ（実習）　一汁三菜の日本料理（高齢者にも適応） 【実習内容】翡翠の香り飯、さばの幽庵焼き、沢煮椀、みぞれ和え、フルーツヨーグルト	【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）
9	調理技術Ⅱ（実習）　中国料理（高齢者にも適応） 【実習内容】五目炒飯、酢豚、とうもろこしのスープ、杏仁豆腐	【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）
10	調理技術Ⅱ（実習）　中国料理（高齢者にも適応） 【実習内容】五目炒飯、酢豚、とうもろこしのスープ、杏仁豆腐	【復習】授業プリントの記載内容をもとに講義内容を再度確認する（0.5時間）

評価方法

(1)宿題・レポートを数回実施する。 (2)定期試験（筆記）を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				80%
小テスト						
宿題・レポート	○	◎		◎		10%
発表・作品				◎		10%

履修上の注意

出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	家庭生活（被服）				
科目名（英）					
単位数	2単位	時間数	20時間	担当者	鈴木　綾
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	服飾デザイン及び製造、障害者向け衣料品のデザイン及び製造
対象学科・学年	介護福祉科2年				
授業概要	誰もが身に着けている被服は、身体を保護し生命を維持するために欠かせないものです。また、人の尊厳を守り自分らしく生きる意欲にもつながる大切なものです。特に高齢者や障害者は被服のサポートを受ける面で、個人の気持ちが置き去りにされてしまう場面が多く見受けられています。ご利用者の心と身体の状態に合わせたサポートが理解できるように、被服の取り扱い方を身に着けながら学んでいきます。				
授業形式	講義：　○	演習：　△	実習：　○	実技：	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					被服の役割を説明でき、様々な種類の被服の取り扱い方を説明できる。
	○				個々の身体の状態に合わせた被服の問題点を理解し説明することができる。
		○			ボタン付けや服のほつれを限られた時間内で手早くできる。
			○		利用者の尊厳を守りかつ安全な被服の選択をすることができる。
			○		ご利用者の求めていることを理解し相手に立場に立った支援ができる。

テキスト・教材 参考図書

中央法規出版　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	装いについて考える	普段の自分自身の装いについて考える。
2	福祉の衣料品	市場にどのようなものがあるのか見ておく。
3	服の素材、取り扱い方について	教科書の該当ページを読んでおく。
4	洗濯、しみ抜き、漂白について	〃
5	縫製実習　基礎縫い	裁縫道具（糸切りはさみ、縫い針、縫い糸、待ち針）を準備する。
6	縫製実習　基礎縫い	〃
7	縫製実習　基礎縫い	作品提出
8	障害当事者による話とワークショップ	レポート提出
9	衣類や寝具の衛生管理について	教科書の該当ページを読んでおく。
10	まとめ、小テスト	授業全体を振り返り、内容を理解しておく。

評価方法

定期試験は、授業のすべてを網羅した筆記試験。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	◎		○		90%
実習作品			◎	○		10%
小テスト						
レポート						
発表						

履修上の注意

出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。
実習作品の期限内未提出は減点対象となる。

科目名	生活支援技術・基本Ⅱ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	案納／山下／豆田／平山
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	NS(病院)／NS(病院)／CW(病院)／CW(老健)
対象学科・学年	介護福祉科2年				
授業概要	基本Ⅰをふまえて、生活支援にICFの視点にもとづいた利用者の生活支援ができるようになることをめざす。 そのために必要な介護技術・援助方法の習得をめざす。				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				生活支援における意義と目的を理解し、その際に必要なアセスメントをすることができる。
	○	○			介護技術の理論と方法を習得する。

テキスト・教材 参考図書

最新　介護福祉士養成講座　6. 生活支援技術Ⅰ　中央法規
最新　介護福祉士養成講座　7. 生活支援技術Ⅱ　中央法規
見て覚える！　介護福祉士国試ナビ　中央法規

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	想定される事故と予防の視点を理解する(山下)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと
2	応急手当(山下)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと
3	応急手当の実際_演習(山下)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと
4	応急手当の実際_演習(山下)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと
5	休息・睡眠(豆田)/睡眠の意義と効果	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(2時間)
6	休息・睡眠(豆田)/演習「睡眠姿勢体験」	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)
7	人生の最終段階におけるケアの意味(平山)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)
8	人生の最終段階におけるアセスメントの視点(平山)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)
9	死をむかえる人の介護(平山)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)
10	死後のケア演習(平山)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)
11	亡くなった後の介護・グリーフケア(平山)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)
12	快適な室内環境について(案納)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(2時間)
13	福祉用具の意義・重要性(案納)	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(3時間)
14	ふくふくプラザ施設見学	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)
15	ふくふくプラザ施設見学	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)

評価方法

⑴宿題、レポートを数回実施する。 ⑵定期試験の(筆記)を実施する。 ⑶グループワーク実施時の参加状況
以上を下記の割合で評価する
成績評価基準は、 A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				90%
小テスト						
宿題・レポート	○	◎				5%
発表・作品				◎		5%

履修上の注意

出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	介護実習Ⅲ①				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	平山恵子
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護職員勤務
対象学科・学年	介護福祉科　2年生				
授業概要	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 ① 介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 ② 多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。				
授業形式	講義:	演習:	実習:　○	実技:	※ 主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる
		○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる
	○	○			学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学することできる
	○		○		多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる
			○		計画的に実習の課題に取り組むことができる。

テキスト・教材 参考図書: 実習要項・記録

授業計画

日数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る	日々の実習記録の記載
2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する	日々の実習記録の記載
3	利用者と自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる	日々の実習記録の記載
4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する	日々の実習記録の記載
5	介護過程の展開実践のための受け持ち利用者の決定	日々の実習記録の記載・フェイスシートの完成
6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する 生活支援技術実践のための見学を行う	日々の実習記録の記載
7	コミュニケーションから情報収集を行う。 指導者の指示のもと根拠に基づく生活支援技術の実践	日々の実習記録の記載
8	他専門職から得られる情報を収集する	日々の実習記録の記載
9	フェイスシート、状況シートを記入し指導者からの確認を受ける	日々の実習記録の記載
10	中間カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う	日々の実習記録の記載・状況シートの完成・カンファレンスレポートの作成
11	介護過程の実践 1日の流れを理解し自ら進んで業務に参加する	日々の実習記録の記載
12	課題を元に、介護計画の立案 根拠を理解した生活支援技術の実践	日々の実習記録の記載・アセスメント表の完成
13	介護計画を指導者へ確認、指導を受ける 根拠を理解した生活支援技術の実践	日々の実習記録の記載
14	介護計画の実践準備 レクリエーションなどの企画運営	日々の実習記録の記載
15	介護計画の実践 自ら考えて様々な業務を見学する	日々の実習記録の記載・個別援助計画の完成

評価方法

実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる　B一度指導されれば、行動することができる　Cその都度指導されれば行動できる　D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。
施設評価80%　担当教員評価20%　総合評価がDの場合は再実習

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
施設評価		○	○	○		80%
担当教員評価		○	○	○		20%

履修上の注意: 実習は100%の出席のみ評価の対象となる。

科目名	介護実習Ⅲ②				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	160時間	担当者	平山恵子
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護職員勤務
対象学科・学年	介護福祉科　2年生				
授業概要	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 ① 介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 ② 多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。				
授業形式	講義:	演習:	実習:　○	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる
		○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる
	○	○			学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学することができる
	○		○		多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる
			○		計画的に実習の課題に取り組むことができる。

テキスト・教材 参考図書

実習要項・記録

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
16	介護計画の実践 介護福祉職以外の職種について見学等を行い、多職種連携を学ぶ	日々の実習記録の記載・実施、評価の記録
17	介護計画の再アセスメントの必要性について考察 昨日の学びを通して、チームケアについて考察する	日々の実習記録の記載
18	これまでの学びを通して、施設の社会的役割を理解する 介護福祉士の倫理観や専門性について考察する	日々の実習記録の記載
19	介護計画実践のまとめ すべての生活支援技術について習熟度の確認	日々の実習記録の記載・プロセスレコードの完成
20	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う	日々の実習記録の記載・最終カンファレンスレポートの提出
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

評価方法

実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる　B一度指導されれば、行動することができる　Cその都度指導されれば行動できる　D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。
施設評価80%　担当教員評価20%　総合評価がDの場合は再実習

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
施設評価		○	○	○		80%
担当教員評価		○	○	○		20%

履修上の注意

実習は100%の出席のみ評価の対象となる。

科目名	在宅介護実習				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	12時間	担当者	平山恵子
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護職員勤務
対象学科・学年	介護福祉科　2年生				
授業概要	在宅で生活する方の、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、生活の場においての個別ケアの実際を学ぶ。他職種協働や関係機関との連携を通じてチームケアの重要性を学ぶ。				
授業形式	講義:	演習:	実習:　○	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○			在宅介護実習の実際を見学することで介護福祉職の役割を知る。
		○	○		家事援助・身体介護の実際を学ぶ
	○	○			実習記録を適切な方法で毎日記載し確実に提出することができる。
	○		○		社会人としての基本的マナーが実践できる

テキスト・教材 参考図書

実習要項・記録

授業計画

日数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	指導者と利用者の自宅に訪問し、介護の実際を見学する	日々の実習記録の記載
2	指導者と共に同行訪問し、家事援助等できそうなことを手伝う	日々の実習記録の記載
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

評価方法

実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる　B一度指導されれば、行動することができる　Cその都度指導されれば行動できる　D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。
施設評価80%　担当教員評価20%　総合評価がDの場合は再実習

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
施設評価		○	○	○		80%
担当教員評価		○	○	○		20%

履修上の注意

実習は100%の出席のみ評価の対象となる。

科目名	IPE（多職種連携教育）				
科目名（英）	Interprofessional Education				
単位数	1	時間数	16	担当者	豆田和也
実施年度	2022	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて介護福祉士として勤務
対象学科・学年	介護福祉科２年				
授業概要	利用者と家族を中心としたケア・サービスを実現するために専門職が行う多職種連携の実際ついて知る。 双方の専門性の理解と連携の方法を深める。				
授業形式	講義　△	演習：　○	実習：	実技：	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○		○		IPW（多職種連携）の実際について理解し説明できる
○	○		○		他職種の専門性について理解し、それぞれの役割について言うことができる
○	○		○		多職種連携を踏まえた、個別援助計画を立案することができる
○	○		○		IPW（多職種連携）において、介護福祉士の専門性・役割について説明できる

テキスト・教材 参考図書：見て覚える！介護福祉士国試ナビ２０２１　中央法規出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	IPW（多職種連携）・IPE(多職種連携教育）の展望と本科目の概要・目的	介護福祉士の専門性について考えておく
2	事例課題紹介・アセスメント（フェイスシート・状況シート）	介護過程について復習しておく
3	アセスメント（ICFシート・アセスメント）	介護過程について復習しておく
4	他職種講義：看護師・ソーシャルワーカー	専門職について事前学習しておく
5	他職種講義：リハビリ（PT/OT/ST）	専門職について事前学習しておく
6	個別援助計画の立案及び具体的連携方法の考察	介護過程について復習しておく
7	個別援助計画の発表	介護過程について復習しておく
8	GW：IPWにおける介護福祉士に求められること	ここまでの授業内容の振り返りをしておく
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

(1)授業の中で個別援助計画の立案を行う。 (2)全授業終了後、レポート課題を課す。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
レポート課題	○	○				70%
個別援助計画関連書類	○	○				30%

履修上の注意：出席が6回に満たない場合は、評価不可とする。

科目名	介護福祉各論Ⅱ（後期／通年）				
科目名（英）					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水　美穂
実施年度	2022年度	実施時期	後期／通年	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて 介護福祉士として勤務
対象学科・学年	介護福祉科　2年生				
授業概要	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解して、介護福祉の専門職としての能力と態度を学習する。				
授業形式	講義:　○	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○		○		介護におけるリスクマネジメントの方法や制度について説明できる
○		○	○		リスクの存在について検証し発表できる
○	○		○		チームケアの方法と連携職種について理解しチームでの介護福祉士の役割が何なのか考えることができる
○	○		○		労働に関する法律について覚えることができる
○	○		○		これからの介護福祉士の将来性、専門性を考えることができる。

テキスト・教材 参考図書

中央法規「介護の基本」

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
16	健康管理の意義と目的	
17	働く人の健康や生活を守る法制度	
18	働く人の健康や生活を守る法制度	
19	介護労働の特性と健康問題	
20	介護労働の特性と健康問題	
21	介護従事者にとってのこころの健康問題	
22	こころの病気	
23	職場で取り組むこころの健康管理	
24	介護従事者の身体の健康障害の現状	
25	労働環境について学ぶ意義	
26	労働条件がかかわる労働環境	
27	介護従事者の労働災害	
28	介護従事者の労働災害	
29	これからの介護福祉士	
30	これからの介護福祉士	

評価方法

定期試験（筆記）を実施する。
成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	◎				100%

履修上の注意

出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ				
科目名(英)					
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	案納／吉水／豆田
実施年度	2022年度	実施時期	通年/後期	担当者実務経験	NS(病院)／CW(特養)／CW(病院)
対象学科・学年	介護福祉科　2年				
授業概要	各疾患の医学的理解・心理的理解を基とし、障害の状態に応じた介護支援の展開を行えるようになる。 また、利用者ニーズに対応した具体的な支援方法についても学ぶ。				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				各疾患・障害の概要と特徴的な症状について説明できる。
○	○				各疾患・障害の特有の生活の困難について説明できる。
○	○	○			各疾患・障害に応じた生活支援技術の展開方法を選択し、生活支援技術基本の内容を応用できる。

テキスト・教材 参考図書

中央法規出版　最新介護福祉士養成講座-8　生活支援技術Ⅲ

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1～4	知的障がいに応じた介護	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと
5～8	重症心身障害に応じた介護	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと
9～12	発達障害に応じた介護	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと
13～15	精神障害に応じた介護	教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。授業内で行った演習についても定期試験にて問題として出題する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○	○			100%
小テスト						
宿題・レポート						
発表・作品						

履修上の注意

出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	介護過程各論Ⅱ（後期／通年）				
科目名（英）					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	平山恵子
実施年度	2022年度	実施時期	後期／通年	担当者実務経験	介護老人保健施設にて 介護福祉士として勤務
対象学科・学年	介護福祉科　2年				
授業概要	授業の中で介護過程の展開方法を理解したうえで、実習事例体験を通して、個々に合った介護過程の展開ができるようになる。さらに、実習後個別のケースに対して事例研究を行い、事例検討の方法を習得する。				
授業形式	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる方法:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					介護過程の展開のうちアセスメントの方法について根拠を理解し事例に応用することができる
	○				実習担当利用者に対してアセスメントを実践し、適切に記録することができる。
○					介護過程の展開のうちアセスメントから計画の立案までの一連の方法習得し実習に応用できる
			○		担当利用者の介護計画について実習後根拠に基づき分析を行い、論文にまとめプレゼンを行う。

テキスト・教材 参考図書

中央法規介護福祉士養成講座９　介護過程
みらい　アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
16	事例研究の方法・評価基準	
17	卒業研究テーマの決定・先行研究、参考文献の選定	福祉専門書の選定情報収集
18	卒業研究テーマの決定・先行研究、参考文献の選定	
19	事例研資料作成方法の説明・抄録作成	
20	事例研資料作成方法の説明・抄録作成	
21	第1稿提出	
22	抄録（第1稿）修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成	
23	抄録（第2稿）修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成	
24	第2稿提出	
25	抄録（第2稿）修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成	
26	抄録（第3稿）修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成	
27	プレゼン資料完成	
28	発表原稿作成・プレゼン確認	
29	発表会	
30	抄録・パワーポイント（文集用）作成	

評価方法

前期は定期試験（筆記）を実施・後期は介護過程事例研究論文提出により評価する。
成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。
通年評価は、前期・後期の評価を総合的に評価する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験（前期）	◎	◎				100%
発表・作品（後期）	○			○		100%

履修上の注意

出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	介護総合演習Ⅱ（後期／通年）				
科目名（英）					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	平山恵子
実施年度	2022年度	実施時期	後期／通年	担当者実務経験	介護老人保健施設にて 介護福祉士として勤務
対象学科・学年	介護福祉科2年				
授業概要	①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。 ②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。				
授業形式	講義：　○	演習：	実習：	実技：	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					介護福祉士としての理念、職業倫理、総合的な対応能力が身についている。
○					介護過程の展開が実習の場面で行える。

テキスト・教材 参考図書

中央法規「介護総合演習・介護実習」

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
16	実習施設発表、定期券申請	
17	調べ学習、自己紹介表記入	
18	実習内容、目標設定	
19	実習の決まりごと確認	
20	事前挨拶・実習前審査	
21	事前挨拶・実習前審査	
22	プロセスレコード記入方法	
23	カンファレンス記入方法	
24	帰校日（実習2週目）	
25	帰校日（実習3週目）	
26	帰校日（実習4週目）プロセスレコード発表会	
27	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入	
28	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入	
29	報告会準備	
30	介護実習Ⅲ報告会	

評価方法

定期試験がないため授業、帰校日の出席、授業中の態度、意欲、努力、提出物（カンファレンスレポート、プロセスレコード、実習を終えて等）を評価対象とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験						
小テスト						
宿題・レポート						
発表・作品						
出席				○		50%
提出物				○		50%

履修上の注意

出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。

科目名	医療的ケア（後期／通年）				
科目名（英）					
単位数	4単位	時間数	68時間	担当者	林田　朋子
実施年度	2022年度	実施時期	後期／通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
対象学科・学年	介護福祉科２年				
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。 さらに業務として喀痰吸引と経管栄養が加わり、この授業では、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得することを目的とする。				
授業形式	講義：　○	演習：　△	実習：	実技：　○	※　主たる方法：○　その他：△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことになった背景をなどを学び説明できる
○					医療的ケアを安全に実施するための基礎知識を学び医療職との連携の重要性を説明できる
○	○				喀痰吸引に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる
○	○				経管栄養に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる
○	○	○	○		医療的ケアの実技ができる

テキスト・教材 参考図書

・中央法規出版　介護福祉士養成講座15　医療的ケア
・中央法規出版　見て覚える！介護福祉士国試ナビ

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
18	第3章　経管栄養　第1節経管栄養概論　消化器系のしくみと働き	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
19	消化・吸収とよくある消化器の症状 経管栄養とは・経管栄養が必要な状態	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
20	経管栄養のしくみと種類	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
21	注入する内容に関する知識　経管栄養実施上の留意点①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
22	経管栄養実施上の留意点②　子どもの経管栄養について	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
23	経管栄養に関する感染と予防 利用者・家族の気持ちとと対応、説明と同意	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
24	経管栄養のより生じる危険、注入後の安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
25	第2節経管栄養実施手順　経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ 清潔の保持	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
26	経管栄養の技術と留意点	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
27	経管栄養に必要なケア	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
28	経管栄養演習　経鼻経管栄養 1回目	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
29	経管栄養演習　経鼻経管栄養　2回目	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
30	経管栄養演習　胃ろう経管栄養	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
31	喀痰吸引演習　口腔・鼻腔喀痰吸引	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
32	喀痰吸引演習　気管内喀痰吸引	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
33	後期授業ふり返り	質問事項をまとめておくこと
34	後期授業ふり返り　定期試験対策	

評価方法

(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループ発表を実施する。(3)定期試験（筆記）を実施する。(4)実技試験を実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				75%
宿題・出席	○	○		◎		5%
グループワーク・演習	○	○		◎		10%
実技試験	◎	◎				10%

履修上の注意

出席が23回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。